

# 実証段階・実用段階にある技術を活用した 復興・再生への取り組み事例

注：復興・再生戦略協議会の委員の方や、現地で活動されている企業、  
自治体等からご紹介戴いた「仕組み見直し等」の参考となり得る具体  
事例の一部について、事務局でまとめたものである。

平成24年12月14日

# 目 次

1. 宮城県岩沼市の震災復興計画  
新しいまちづくりの取り組み
2. 宮城県気仙沼市の「防潮堤を勉強する会」
3. 新しい交通システムの社会実験  
～釜石市のオンデマンドバス・JR気仙沼線不通区間でのBRT～
4. ICTを利活用した健康・医療・見守り関連の取り組み  
新しい技術を取り入れた取り組み
5. 施設園芸栽培の省力化・高品質化実証研究  
～山元町・亘理町のいちご産地の復興支援～
6. 「人」「場所」「資金」面での支援の取り組み1  
～復興支援プロジェクト「KIBOW」・グロービス経営大学院仙台校の開校～
7. 「人」「場所」「資金」面での支援の取り組み2  
「人」「場所」「資金」面での支援の取り組み  
～起業家協働スペース「cocolin」・志を持った起業家支援「CHALLENGE STAR」～
8. 東北大大学「8つのプロジェクトと復興アクション100+」

# 1. 宮城県岩沼市の震災復興計画

## 【事業または研究開発の概要】

- 岩沼市では、被災直後から、ペアリング支援（一つの団体や市町村が一つの被災地と助け合って信頼関係を育み、持続的に支援をしていく方法）を受けたため、早期の復興計画策定や、防災集団移転事業への着手が可能となっている。
  - 第一段階：グランド・デザインの策定（理想に基づく長期計画）  
宮城県岩沼市では、2011年4月に「岩沼市震災復興基本方針」を決定。同年8月には学識経験者や産業関係者、被災者代表等からなる「岩沼市震災復興会議」（座長：石川幹子東京大学大学院教授）の第4回会合にて「岩沼市震災復興計画グランド・デザイン」を決定。

宮城県岩沼市では、2011年4月に「岩沼市震災復興基本方針」を決定。同年8月には「岩沼市震災復興会議」(座長:石川幹子 東京大学大学院教授)の第4回会合にて「岩沼市震災復興計画グランドデザイン」が策定された。この計画では、震災復興のための「学識経験者や産業関係者、被災者代表等からなる「岩沼市震災復興会議」」が組織され、その運営によって、震災復興のための具体的な方針や計画が策定される。この会議では、震災復興のための様々な議論が行われ、最終的に「岩沼市震災復興計画グランドデザイン」が策定された。

〇第二段階：「岩沼市雪災復興計画アスター・プラン」の決定（7か年計画）（2012年9月）

1. 沿岸部の6集落の意志を尊重し、すべての集落の集団移転を行う。
2. 沿岸部に名古屋御の新しい社会を譲り、津波の力を減らす「工矢希望」

2.沿岸部に多量防衛の新し社云共通奉益とし、津波の力を減衰させる「十年布里の丘」を整備し減災に取組む。

3.津波浸水エリア全域における居久根の調査を実施。居久根の活用等、農村集落の文化的景観の保全・再生を図る。

4. 太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーの生産拠点としての可能性を検討する。

○第三段階：安全なまちづくりワークショップの開催（2被災者自身がまちづくりの主体となり計画・学習）

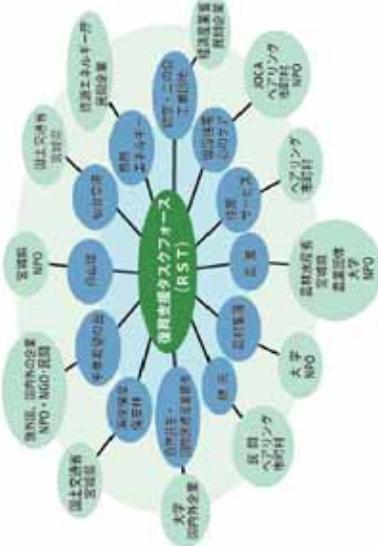
- 第四段階：防災集団移転促進事業の決定と着工事業認可は、2012年3月、起工式は、同年8月。復興の進捗状況に応じた、まちづくり

審議主体 検討会を継続中。

## 【実施主体】

- 宮城県岩沼市、ペアリング支援として東京大学大学院都市持続再生研究センターが参加。

千年希望の丘 断面図(海岸～三軒茶屋地区集落)  
(出典:「岩沼市電災復興計画グランデザイン」(2011.8.7))



ペアリングシステムの概念図  
(出典:「岩沼市電復興計画マスタープラン」(2011.9))

三



## 2. 宮城県気仙沼市の「防潮堤を勉強する会」

### 【事業または研究開発の概要】

- 国や宮城県、気仙沼市などが進める防潮堤建設計画について、正しい知識をもとに市民が納得して進められるよう、気仙沼市民有志により「防潮堤を勉強する会」が2012年8月に設立された。
- 賛成反対の議論の場ではなく、防潮堤計画の根本となる法的根拠や行政の基本方針、根本的なルール、決定・建設のスケジュールや技術的知識等の基本情報を整理し、情報を交換している。
- 情報の共有と整理のため、学識経験者や民間企業、行政関係者等を講師として招き、以下のテーマをはじめとした講演会や意見交換会を実施している。

#### ・防潮堤建設計画の基本的な流れとルール(第1回)

(講師:宮城県土木部河川課 課長)

#### ・背後地の利用方法による防潮堤パターンの考察(第2回)

(講師:(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構構人と  
防災未来センター)

#### ・防潮堤の法的制度・功罪のまとめと各地区及び気仙沼市の選択肢の可能性(第6回)

(講師:関西学院大学 総合政策学部 教授)

#### ・防潮堤を含む復興への議会の取り組みと、今後の勉強会との協働の方法(第7回)

(講師:気仙沼市議会議員)

#### ・気仙沼市長との意見交換会(第13回)

- 防潮堤建設計画について、共通理解を深めようと発足した勉強会(は計13回の連続講演を10月に終え、今後は地域支援や情報発信に軸足を移すこととしている。

### 【実施主体】

- ・気仙沼市「防潮堤を勉強する会」(HP <http://seawall.info/index.html>)



(出典:「気仙沼市 防潮堤を勉強する会 会議の様子  
防潮堤を勉強する会」HP <http://seawall.info/index.html>)

### 3. 新しい交通システムの社会実験～釜石市のオンデマンドバス・JR気仙沼線不通区間でのBRT～

#### 【事業または研究開発の概要】

1. 釜石市のオンデマンドバス  
○岩手県釜石市では、トヨタ自動車(株)と協力して、釜石市北部の仮設住宅地域と同市市街地を結ぶ区間を対象に、オンデマンドバスの共同運行実証を2012年10月より開始した。

○トヨタ自動車(株)が提供する「オンデマンド交通システム」により、利用者の事前予約による乗降地点や希望時刻に応じて、走行経路や時刻を算出するとともに、過去の利用状況や交通事情も考慮して、運行計画を最適化している。

#### 2. JR気仙沼線不通区間でのBRT運行

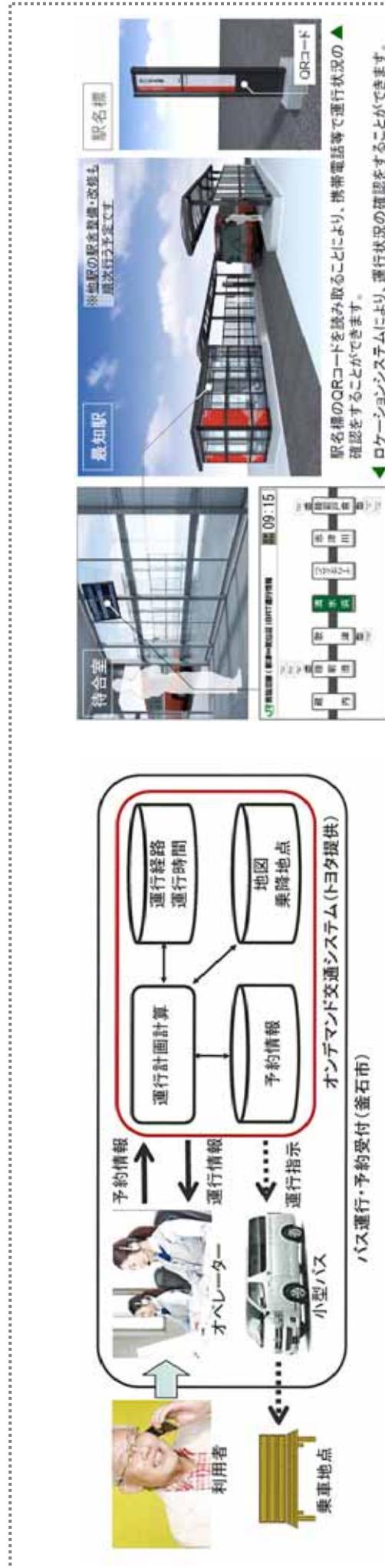
○東日本大震災で被災したJR気仙沼線の不通区間(宮城県・気仙沼一柳津、55キロ)では、JR東日本により、バス高速輸送システム(BRT)の専用道を使用した代行バス運行が、2012年8月によりようやく開始した。

○BRTの便数は多い区間で鉄道時の2倍に増加し、バスがどこを走っているか分かる新しいシステムも導入されている。

#### 【実施主体】

1. 釜石市のオンデマンドバス：岩手県釜石市、トヨタ自動車(株)、豊田中央研究所、豊田通商、KDDI、SGシステム、(株)ドリームインキュベーター
2. JR気仙沼線不通区間でのBRT：JR東日本(株)

^ 11 >



(出典：「気仙沼線における暫定的なサービス提供開始について」(2012.7.18) JR東日本(株))

(出典：「気仙沼線における暫定的なサービス提供開始について」(2012.7.18) JR東日本(株))